

# パブリック・コメント 実施結果

12月3日(火)から1月9日(木)までパブリック・コメントを行いましたので、結果の公表を行っています。

●公表期間 2月28日(金)～3月31日(月)

●閲覧場所 ◇市ホームページ◇市役所(本館1階ホール・行政資料室(市役所新館3階)・担当課)◇まどかびあ図書館◇各コミュニティセンター◇すこやか交流プラザ◇青少年の居場所「ユープレ」

大野城市広報・広聴戦略プラン(案)

●問い合わせ先

プロモーション推進課ふるさと広報担当

☎(580)1800



市ホームページ

大野城市シティプロモーションアクションプラン(案)

●問い合わせ先

プロモーション推進課にぎわいづくり担当

☎(580)1895

## 大野城市表彰 特別表彰を贈呈



市では、さまざまな分野でまちづくりに貢献した人やスポーツなどの分野で特にその活躍が著しい人を表彰しています。

特別表彰を3人に贈呈しましたので、その氏名と表彰理由を紹介します。(順不同・敬称略)

**松原 湊太** 船越義珍杯第16回世界空手道選手権大会 19歳～21歳 男子・形の部優勝(写真中央左)

**小山 ゆら** 船越義珍杯第16回世界空手道選手権大会 12歳 女子・形の部優勝(写真中央右)

※上記2人は、2月22日(土)に贈呈

**渡邊 直子** ※表彰理由および写真などは、特集(P2～3)に掲載しています。

あけてみよう!

## 歴史のとびら

186

発掘調査御陵古墳群出土三角縁神獸鏡の秘話



大野城心のふるさと館に納められている三角縁神獸鏡。古墳時代前期に作られたもので、縁の断面が三角形をしており、鏡の中心には神仙と靈獣の像を配置していることが特徴です。この鏡は、割れてバラバラになっており、今は8片が残っていますが、出土した時の様子について、次のような秘話があります。

赤坂山がどこにあったのかは、今は分からなくなっていますが、村長はその後鏡を代々大切に保管していました。一八六七年、中村の村長のひ孫が村長を務めていた時、京都から太宰府に送られていた三条実美(みづの)が乙金村の村長の家に遊びに来ました。中村の村長は、家で大切に保管してきた三角縁神獸鏡を見せ、三条公はその鏡を見て大変興味深く思い、後日次の歌を中村の村長に送りました。

ふる鏡 影はくもれと古の  
あとはさやかに見へて残り

鏡はその後、大野城市で保管されるようになりました。子どもが持っているままであれば失われていたかもしれませんが、鏡を残そうと、さまざまな人たちが今にたどり着いてくれているのです。

鏡は掘り出された時は完形であったようですが、16片に打ち割って3人で分け合って持っていました。しかし、このことを聞きつけた当時の中村の村長が、古い鏡であったので博多の鋳物師に頼んで大小1枚ずつ複製の鏡を作ってもらい、1枚は御陵中学校の南側にある御陵宝満神社に、もう1枚は中宝満神社に納めました。

また、鏡を掘り出した場所を村長たちが調べたところ、剣と古い木を見つきました。赤坂山には古墳があったと考えられます。



御陵古墳群出土  
三角縁神獸鏡

●問い合わせ先

心のふるさと館文化財担当

☎(558)2205